

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870300906
法人名	有限会社 エンジェルハウス
事業所名	グループホーム紙ふうせん
所在地	愛媛県宇和島市三間町成家845番地
自己評価作成日	平成23年9月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりが安心して暮らせるように、サービスの見直しや計画も、スタッフ、家族と情報提供を行い、要望、希望など聞き、ミーティングやスタッフ会などで話し合いながら支援を行い、又、研修や勉強会などにも取り組み、事故防止や質の向上を目指し、よりよいサービスが出来るよう日々努力している。介護の重度化の見られる方も増加しており、みとりの受け入れにも取り組んでいきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

運営推進会議を通じ「地域の方々に事業所のことをさらに知っていただきたい」と、取り組みをすすめておられる。新しく会議に出席して下さるようになった地域にある道の駅の駅長さんが、道の駅に納涼祭のチラシを掲示して下さった。今年、初めて自治会で災害訓練を実施することが決まり、会議を活用して事業所が中心になって話し合いをすすめられた。
排泄チェック表で、タイミングをみながら、「散歩に行く前に、行かれますか」「食事の前に、行っておきますか」等と声かけして、利用者がトイレで排泄できるよう誘導されている。ポータブルトイレは使用しないで、トイレで排泄できるよう支援されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム紙ふうせん

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 松岡 敬子

評価完了日 平成23年 9月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 月1回のスタッフ会議を行い、グループホームの正しい名称など勉強しあったり、紙ふうせんの名前の由来や理念など見直しながら、いつでも初心に戻って現場に立つよう、話し合っている。実践出来なくても頭に置いて介護をしていくよう心掛けたい。 (外部評価) 「ふうわりおもいやり ふうわりえがお ふうわりやすらぎ まあるいこころの紙ふうせん」と事業所理念を作成して、利用者がのんびり、ゆったりと暮らしていけるような支援に取り組んでおられる。毎月の職員会時、管理者は、グループホームの意義や目的等についても職員に話し、全職員で理解して取り組めるようにされている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 保育園や小学校への訪問や、ホームへの訪問など行き来したり、ボランティア、婦人会の方達の参加による納涼祭を行ったりして、地域の方々とのつながりを深めながら交流している。地域の方の参加が継続出来ている。 (外部評価) 地域の方達とは、日々の散歩時にあいさつを交わしたり、野菜やお花をいただくこともある。8月末の事業所で行う「納涼祭」には、地域の方達にも参加いただけるように、職員がチラシを配布され、今年は200名ほどの参加者があった。運営推進会議のメンバーや婦人会、日赤奉仕団の方も来てくださり、焼きそばの屋台等を手伝ってくださった。事業所で行う「ミニ運動会」には、小学3・4年生が参加してくれて、利用者と一緒に、風船割り等の競技を楽しまれた。又、小学校の運動会には、招待状をいただき、利用者は敬老席で見学をされた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人からの問い合わせや相談があった時は、分かり易く対応できるよう、全員が連絡を取り合ったり、運営委員会で情報提供したりしながら活かしている。運営委員会での議題も地域をとらえたものになりつつある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回の開催により、出席者と共に情報交換、現状報告等を行いながら話し合い、向上、改善に活かしている。出席者の開拓にも努めていきたい。他の事業所への委員会に参加させてもらっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議を通じ「地域の方々に事業所のことをさらに知っていただきたい」と、取り組みをすすめておられる。新しく会議に出席して下さるようになった地域にある道の駅の駅長さんが、道の駅に納涼祭のチラシを掲示して下さった。今年、初めて自治会で災害訓練を実施することが決まり、会議を活用して事業所が中心になって話し合いをすすめられた。今後は、会議に利用者の参加もすすめ、又、婦人会の方にも参加いただけるよう声をかけたいと考えておられる。さらに、ご家族の方と一緒に「認知症サポーター講座」も開催したいと話しておられた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市町村からの要求や依頼に対しては、業務に支障のない範囲で協力させてもらったり、情報提供の場などがあり、協力関係を築くようにしている。民生委員会などへの参加(随時)を希望したい。市町村の協力を得ながら、よりよいネットワーク作りに努めたい。</p> <p>(外部評価) 宇和島市三間町の介護事業所で作る「三間守(みまもり)ネットワーク」を3ヶ月に1度開催されており、社協、包括、宇和島市、町の方も出席して下さっている。会場も各事業所、持ち回りで開催されている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 拘束はしていない。その分見守りはスタッフ同士強化している。施設内、居宅には鍵はかかっておらず、自由に行動してもらえるように心掛け、拘束をしないケアに取り組んでいる。拘束に対する意識も徐々に深まり、スタッフ同士確認しあったり、ミーティングで話す機会が増えた。</p> <p>(外部評価) 玄関は、鍵をかけず、出入りはセンサーの音で職員が気が付くようになっていて、足元が不安定な利用者のベット足元には鈴を付けて、ご本人がベットから足を降ろした際には、鈴が鳴るようになっていて、又、足の不自由な方は、鈴を鳴らして職員を呼ぶ方もおられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 意見箱を設けて、苦情や委員会などミーティングの時に話し合い、虐待防止の徹底に努めている。言葉の虐待に、特に気を付けるよう努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を受けた者もいるが、内容の把握は難しいので、参加資料を職員の休憩室に置き、目を通してもらえるよう指導している。理解し実践出来るのは難しいと思う。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に説明し、理解と納得の上で入居してもらっているが、特に問題のある場合には、個別に説明し、同意を得よう図っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時など、管理者が対応し、意見、要望の受け入れが出来やすいような環境を作ったり、日々コミュニケーションをしっかりとれるよう心掛け、苦情、意見などあった場合は、改善に向けて反映させている。イベント、報告書など、新しいものは、早めにファイルしたり、掲示したりして目に届くようにしている。 (外部評価) 毎月の送付書類とともに、管理者は利用者ご本人の健康状態や、又、ご家族に準備してほしいもの等を書いた手紙を同封されている。ご家族から「イベントの予定を教えてください」という意見があり、年4回発行する事業所便りに年間予定を記載するようにされた。便りでは、利用者の様子や写真の他、職員が順番でコラムを書いておられ「看取りについて」等、ご家族にも知っていただきたいような内容を載せておられる。記事を書いた職員名も載せておられ、ご家族が来られた際、職員との会話のきっかけにもなるようだ。家族会にも取り組んでおられ、半数ほどのご家族の参加があり、開催日に合わせて県外から来てくださるご家族もある。現在は、家族同士、顔見知りになれるよう取り組んでおられる。	事業所では、便りの職員のコラムを通じて、事業所の情報を多く発信していきたいと考えておられる。事業所のサービスをさらに良くしていくためにも、入居間もない方や長く事業所サービスを利用されている方等、それぞれにご家族の心情を踏まえながら、事業所への意見や要望を具体的に引き出し、サービスに採り入れていかれてほしい。評価結果や家族アンケートの集計表等を用いて工夫されてみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 週1回のミーティングや、月1回のスタッフ会議などで、問題点や要望など話し合いの場を設け、気軽に話が聞ける機会を持つようにして反映させている。問題のある場合は、個人的に話す機会を持つよう努めていたり、意見交換や提案を出し、問題解決の足掛かりとしている。	
			(外部評価) 外部研修時に職員が習った、タオルを使った「いきいき体操」を採り入れて、利用者が体操する機会を作っておられる。事業所では、職員間のコミュニケーションをととても大切にされており、職員同士で親睦を深める機会等もよく作っておられる。職員は「感染症委員会」等、それぞれが委員会に所属し役割を持って取り組みをすすめておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 休憩室などあり、ゆっくり休むことが出来たり、希望休、リフレッシュ休暇など考慮して、職員同士が働きやすく、各自が向上心を持てるよう整備に努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修など受ける際は、希望者を優先する一方、研修も一人ばかり行くのではなく、全員が参加出来るよう考慮しながら進めている。自己学習に消極的なスタッフの対応も考え、実践トレーニングなども取り入れている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 連絡会などの情報交換や勉強会に参加し交流をはかりながら、ネットワーク作りや、質の向上に取り組んでいる。同業者同士の情報交換にも努めているが思うようにならないのも現実である。	
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時や体験入所された時など、きめ細やかなサービスが出来るよう、本人、家族の話をよく聞き、安心が確保出来るよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に話し合う時間を十分取り、施設見学や安心してもらえるような関係作りに努めている。希望者は体験入所の受け入れもしている。こまめな情報交換を行いながら信頼関係に努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族、関係スタッフでゆっくり話しをしながら、しっかりアセスメントを取り、サービスの対応に努めている。他施設への利用なども助言している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来るだけ本人のペースを崩さず行動するよう、スタッフに日々指導しながら、共同生活であることも利用者に理解してもらえるよう話しかけ、お互いが支え合っていく関係を築いていけるよう支援している。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会や外出、外泊など、自由にしてもらい、家族との関係を忘れないようにするために、本人への支援をしながらお互いの関係を築いていけるよう努めている。家族会による協力が得られている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が大切にしている物や、思い出のある物は、家族と相談して、ある程度までは自由にしており、手紙や電話の受け入れは自由とし、今までの関係が切れないう支援している。 (外部評価) 友人や釣り仲間が訪ねて来てくれたり、年賀状をくださったりする。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中は、フロアにて過ごすよう心掛け、レクリエーションや、生活の中で他の利用者との関わりを大切にしながら、仲間同士お互いが助け合い、支え合って仲良く生活が出来るようスタッフが援助するよう努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方より知人の紹介があったり、再入所の申し込みがあったりして、スタッフと家族の方との関係を大切にしているよう日々努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思表示の出来る方と出来ない方が様々なので、その人の事をしっかり把握できるよう、スタッフ同士情報の交換など密にし、本人をよく知るよう指導している。担当を決め個別ケアと、よりよい気付きに努めている。 (外部評価) 職員は利用者の話をゆっくり聞くことに心がけておられ、日々の記録に利用者の表情や言葉、行動について職員が気が付いたことを記入されている。意思表示が難しいような利用者もおられるが、利用者の表情をみながら、いすに座りっぱなしにならないよう、足を上げたり、横になって休めるようにケアされている。	職員は、外部研修を受講され、ご家族が見やすい介護計画の作成に取り組みたいと考えておられる。さらに利用者らしい具体的な介護計画の作成に向けて、利用者個々の情報収集に努められ、情報を介護計画につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時のアセスメントを確認しながら、その人の生きてきた生活環境などを面会時の家族の方などから情報収集し、生活歴を参考にしながらサービスに取り入れていけるよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりのバイタルチェック表、受診報告書、介護記録などにより健康状態や、心身状態の変化が分かるよう、ユニットリーダー、スタッフ同士の伝達に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 月1回の全体会議や、何かの問題がある毎に、各ユニットごとのスタッフ会議、面会時の家族と本人などにて話し合いの場を設け、その時の状況の変化等を対処法、意見、安全をうかがいながら話し合い、よりよい介護計画への作成に反映されている。</p> <p>(外部評価) 3ヶ月毎に介護計画を見直しておられる。「本人が穏やかに過ごせるように」「自分で歩ける範囲で歩かせてほしい」等、ご家族の意向も計画に採り入れ作成されている。状態変化時には、その都度ご家族に連絡して、相談しながら計画を見直しておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 高齢になるにつれ、日動作激しく、日々変化の多い事ばかりなので、業務改善などで話し合ったり、研修に参加したりしながら、記録の必要性を自覚してもらい、出来るだけ本人の状態が分かるような記録の書き方など努力し、自然の会話や言葉がそのまま書けるよう努めている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 受診時の対応や、その他必要性のある場合は、家族、本人の状態に対応したサービスの多機能化に取り組んでいる。日々の変化を記録に残し、職員同士で情報を共有しながら、その時に生まれるニーズに合ったサービスが提供出来るよう、必要性に合ったサービスの多機能化に努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 学校、保育園、地域の方々との交流の場を設け、お互い協力しながら、地域の行事などの参加、ボランティアなどの協力、事業所の開拓に努めている。豊かな暮らしに限られた施設内で充実した日々を送ることが出来るよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 協力医とのコミュニケーションもうまく取れており、相談、診察など安心してはいる。かかりつけ医がある場合は、本人、家族の意思を重視しながら、緊急対応先なども把握できており、随時個別に対応しながら支援している。専門病院が少なく選択が出来ない。</p> <p>(外部評価) 協力医が24時間対応してくださるようになってはいる。以前からのかかりつけ医が往診に来てくださる方もある。ご家族が遠方におられたり、都合等もあって利用者の病院受診は、ほとんど事業所で支援されている。重度化に伴い利用者の病院受診の回数も多くなっており、職員の人手のこともあって、ご家族とも話し合い、協力医に定期的な往診をお願いしたいと考えておられた。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 看護師の有資格者がいるので、相談、助言をしてもらったり、協力医の看護師と連絡を取り合ったり、デイサービスの看護師のアドバイスをを受けたり、受診が適切に受けられるよう支援している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入退院の際には、担当医と協力医との連絡を、電話やファックスなど利用しながら、指示、助言などの情報交換、相談など行っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人の体調の変化には十分注意しながら、家族、かかりつけ医の指導のもと、スタッフ同士が状況把握をしっかりと行いながらチーム支援に取り組んでいる。状況に応じて、看取り、延命等の話が出来た事も増えた。利用者も重度化している。</p> <p>(外部評価) 利用者の状態変化時には、ご家族にご本人の終末期の過ごし方について希望をお聞きして話し合い、方針を決めておられる。状態が変化して入院した際、病院からは胃ろうを勧められたが、ご家族は事業所でできる限り口から食べることを希望された。事業所では医療機関等と連携を取りながら支援され、他の利用者も居室に来て、ご本人に声をかけてくれたりして看とられた。ご家族の方からは「ホームで看てもらってよかった」という言葉をいただいたようだ。</p>	<p>さらに、看とり支援の経験等も踏まえて、事業所でも看とりの指針を示していかれてはどうだろうか。ご家族や関係者と協力しながら、利用者やご家族の希望に応じて支援できるような体制を作っていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修会や自施設での勉強会、ミーティングなどに対応策を話し合ったり、マニュアルによる指導をしながら、また、スタッフルームにも随時掲示したりして実践している。データの見直しなども行いながら改善、実践に結び付くよう努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練や緊急連絡網、避難経路など掲示したり、緊急時の役割分担などもスタッフルームに掲示したり、運営委員会にて、地域代表者などにも協力をお願いしている。年に1~2回夜勤体制での訓練を予定している。9月に地域の合同訓練を行う。 (外部評価) 9月に併設デイサービスや近隣の保育園、小学校とともに「自治会内合同避難訓練」を実施された。日赤奉仕団の方にも利用者を避難誘導していただき、避難場所の保育園まで避難をされた。又、消防署の方に「防災の心構え」についてお話を聞かせていただいた。訓練後には、地域の方との反省会も行われ、地域の半数の方は、避難場所まで来ることが難しいということが分かったようである。	今後、毎年計画的に合同訓練を行う予定になっており、さらなる地域との協力体制作りが期待される。ご家族から「避難した際には、その場所を教えてください」という意見もあり、「災害時、避難した場所をご家族に知らせる」ことを決められていた。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーや情報など守秘義務に関しては、随時、徹底して繰り返しながら言い聞かせ、携帯電話のメールや、日常の言葉使いにも十分配慮しながら対応していくよう日々指導している。見守り、声かけ等には、一人ひとりの尊厳を重視した支援を心掛けている。 (外部評価) 職員は、利用者に対して、利用者個々のプライドを傷つけないよう気を付けておられ、声かけをされる時にも、利用者の表情や反応を見ながら、言葉をかけておられる。利用者の呼び方は、入居時にご本人やご家族と相談されており、名字や名前で呼ぶようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自己決定出来る時は受容を心がけ、出来ない人の為には、家族、スタッフ等で話し合いながら行って本人の要望など、出来るだけ受け入れ出来るように努め、個々に合った援助内容を計画し、実践出来るよう働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりに合わせたペースや、くつろぎ方などに心配りを 忘れず、また、利用者同士の会話や交流を自由に行っても らいその場をゆったりと、スタッフは見守りながら支援してい る。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 理、美容は2ヶ月に1回の割合で希望され、業者と連携しな がら行い、洋服などの選択は本人が行ったり、スタッフと一緒 に選んだりする時もあり、出来ない部分を支援している。服 のはみ出し、髪の流れなど、気を付けるよう指導している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来るだけ採れたての物や旬のものを使用するよう心掛け、 新鮮味、季節感等を味わいながら、好み、調理法、味付けな ど手伝ってもらったり、教えられたりしながら調理したり、片付 け、準備など一緒に行っている。 (外部評価) 管理者が一週間ずつ献立を立て、両ユニットで分担して調 理されている。利用者から食べたいものの希望が出されたり 、いただきものがあるような時には献立を変更して採り入れ ておられる。事業所の畑で作った野菜や、職員が釣って来 た魚が食卓に上ることもある。職員は、利用者に味付けを教 えてもらいながら作るようなこともある。テーブルの高さに合 わせて、いすの座布団の高さを調節して、ご本人が食事がし やすいようにされていた。お正月には、もち米とお米を交ぜ た「おふくもち」をつき、お雑煮にされるようだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 本人の状態、習慣などにより、水分、体重、などチェックを 行ったりしながら、食事の量や、栄養バランスなど考慮しな がらスタッフが調理し、本人からの訴えも受け入れ、チェックを おこない支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを、声掛けや、見守り、一部介助など で行っている。義歯や口腔用品も定期的に洗浄し、夜間は義 歯は取り外している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ポータブルは使用しないで、トイレ誘導を主体に努めている。排泄チェックなど毎日行い、パターン、習慣など考慮、周知し自然な排泄に努めている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で、タイミングをみながら、「散歩に行く前に、行かれますか」「食事の前に、行っておきますか」等と声かけて、利用者がトイレで排泄できるよう誘導されている。ポータブルトイレは使用しないで、トイレで排泄できるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) バイタルチェックなどを参考にしながら、水分補給、食べ物など注意しながら、出来るだけ自然排便出来るよう取り組んだり、便秘薬の指示をドクターに相談し、対応している。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望もあり2日に1回の割合で入浴している。本人の体調状況などにより変更になったり、必要時には毎日入浴に変更になることもあるが、本人の気持ちを主体に支援している。	
			(外部評価) 利用者に希望をお聞きして入浴を支援されており「毎日はいらない」と言われる方等もあり、無理強いせず2日に1度くらいの入浴となっている。併設のデイサービスで入浴することを希望され、お二人で一緒に入浴を楽しむ方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時の状況で、色々な場所で自由に休んでもらったり、安心して眠れるために、スタッフがバタバタしないよう、寝前の雰囲気作りにも気をつけながら支援している。出来るだけ薬に頼らず、日中の運動等で良眠出来るよう心掛けている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフがA、B、Cと確認し、介助する際などにも再度確認するなどして、間違わないようスタッフ同士で確認し合い、変化などあった場合は、何度も間違わないよう注意して行い、かかりつけ医の指示を受けながら支援している。いつでも確認が出来るようにファイルし、きちんと伝達が行えるように努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に合った役割や楽しみ事など、日常の会話の中から見つけ、日常生活に取り入れれたりして気分転換の支援しながら、本人が楽しめる暮らしを目指している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その時の希望を全て聞き入れる事は出来ないが、年間行事、月間行事を決めたりして、本人の希望する買い物、外食、散歩など出来る範囲で支援している。 (外部評価) テラスに出てほたるを見たりお月見をして、夜の風情を楽しまれたり、季節に応じてお花見に出かけたり、道の駅で買物されたり、ドライブにも出かけておられる。「車に酔うから」と車での外出を断る方には、テラスに出る等して外気に触れる機会を作っておられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 大きなお金の預かりはお断りしているが、本人が必要とされている小口の現金は事務所で預かっており、必要な時本人に渡したり、代行で買い物をしている。本人には、なくなって支障がない分だけ家族が持たせているが、利用者同士、問題が起らないよう支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は家族の了解された人には、掛けたり、取次いだりしているが、時間だけは決めてもらっている。手紙などは本人に直接渡したり、読んであげたりしながら、本人の希望を受け入れるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関、食堂などに季節の花を植えたり、飾ったり、窓ガラスなどは特殊な物を使用しており、寒さや、暑さ、湿度、プライバシーの保護などにも注意を払い、季節毎のボードの書き替え等気配りに努めている。	
			(外部評価) 玄関には、コスモスやススキを生けておられ、職員がご自宅から持って来られた枝付きの柿や、いがに入った栗も飾っておられた。温・湿度計を設置し、乾燥しないように気を付けておられ、加湿器を設置しておられる。調査訪問時、ご家族の来訪があり、玄関を入ったところに設置されている洗面所で、うがい手洗いを行ってから中に入っておられる様子がみられた。利用者と畑で野菜を世話したり収穫し、楽しまれている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有出来る空間には、ソファやテレビ、畳など設置し、利用者同士気軽に過ごせたり、レクリエーションを出来るスペースを工夫している。利用者の希望を取り入れながら、テーブルの席替えをしたりして、本人の居場所作りを心掛けている。	
			(外部評価) 家族と本人の希望される物は、出来るだけ持ち込めるよう受け入れているが、転倒の際などに危険性のある物は、最小限にしてもらい、ケガしないように配慮しながら過ごしやすいよう支援している。居室、リビングは自由に使用してもらい、自分の流れで行動出来るよう工夫している。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と本人の希望される物は、出来るだけ持ち込めるよう受け入れているが、転倒の際などに危険性のある物は、最小限にしてもらい、ケガしないように配慮しながら過ごしやすいよう支援している。居室、リビングは自由に使用してもらい、自分の流れで行動出来るよう工夫している。	
			(外部評価) ベットサイドのかごに、ご主人の思い出のメガネやご自分で使うヘアブラシやボールペンを入れている方がいる。居室でご家族が持って来られた本を読んで過ごされる方や、好きな演歌のCDを楽しむ方もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下を広くとったり、設置してある手すりを、転倒防止や歩行訓練などに利用しながら、安全に生活が送れるよう工夫し、水滴など足回りも徹底し、事故防止などに努めている。	
			(外部評価)	